平成19年度 主な新規・拡充事業

1.豊かな人間性をはぐくむまち
- ○地域子育て支援センターの増設
- ○子育て家庭訪問事業の実施
- ○保育園耐震調査の実施
- ○母子自立支援プログラム策定事業の実施
- ○放課後子ども教室の実施
- ○学童保育所の定員拡大
- ○小学校児童用机椅子の更新
- ○中主中学校パソコンの更新
- ○野洲中学校改築基本構想の策定
- ○有隣館老朽度調査と改築基本設計の実施

2.人々が支え合う安心なまち
- ○ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の設置
- ○後期高齢者医療制度の創設準備
- ○市ホームページバリアフリーの導入
- ○特別支援教育の推進
- ○なかよし交流館の管理運営
- ○交通安全施設整備事業の実施
- ○不審者・災害情報メール配信システムの整備

3.美しい風土を守り育てるまち
- ○県民参加の里山づくり事業の実施
- ○農地・水・環境保全向上活動推進事業の実施
- ○環境基本計画の推進

4.地域を支える活力を生むまち
- ○工業振興助成金の交付
- ○商業施設新設等の補助
- ○商工業振興事業の補助
- ○農道舗装工事
- ○富士山サミット実行委員会の補助

5.うるおいとにぎわいのある快適なまち
- ○野洲駅周辺整備計画の策定
- ○野洲川右岸線道路改良工事
- ○市内道路維持工事

6.市民と行政がともにつくるまち
- ○市民活動サポートセンターの設置運営
- ○コンビニ収納システムの導入準備
- ○総合計画の進捗管理
- ○行政改革の推進
- ○情報化計画の策定

◆将来都市像

豊かな自然と歴史に彩られ　人が奏でる　ほほえみ・ときめき　のまち

◆まちづくりの基本理念

人権と環境を土台に、生きる意味が実感できる社会づくり

1.豊かな人間性をはぐくむまち

野洲市のまちづくりの主役は、市民（人）であり、生涯にわたる教育や子育て支援の充実と、一人ひとりの人権を大切にするまちの創造をめざします。

●地域子育て支援センターの増設：新規（２８１万円）

子育てに不安をもつ親や、社会に適応しにくい親が増加する中で、気軽に悩みを相談でき、子育ての情報を得られ、交流の場となる子育て支援センターの需要が増加していることから、新たに野洲健康福祉センター内に子育て支援センターを設置します。

●子育て家庭訪問事業の実施：新規（88 万円）

核家族化などにより、孤立感や負担感を感じながら子育てをしている親が増加していることから、1 歳前後の乳幼児のいる家庭を民生・児童委員が訪問することにより、養育環境の把握、育児相談及び養育力の低い家庭への指導を行います。

●保育園耐震調査の実施：新規（４４０万円）

老朽化の進む保育園について安全性の確保のため、耐震化優先度調査及び耐震調査を行います。

●母子自立支援プログラム策定事業の実施：新規（１２６万４千円）

児童扶養手当受給者に対し、その状況やニーズに応じたきめ細かな自立支援計画書を策定し、就労に結び付けるなどにより自立へと導きます。

●放課後子ども教室の実施：新規（２１４０万4千円）

子どもが安心して遊べる活動拠点（居場所）を設け、地域の方々の参画を得て、長期休暇期間中に学習やスポーツ、文化活動ができる環境を整えることにより、子どもの豊かな体験活動の充実と子育ての支援を図ります。

●学童保育所の定員拡大：拡充（1 億４１４７万３千円）

保護者の就労等により放課後などに保育に欠ける児童が増加していることから、適切な遊びや生活の場を提供するため、学童保育所の定員を 480 名から 530 名に増やします。

●小学校児童用机椅子の更新：新規（７８１万９千円）

児童の机や椅子について、老朽化が著しく、また、教科書等がＡ４サイズ化され、使用に不具合が生じているため、順次入れ替えを行います。

▽各校１学年分　机・椅子　５１０セット

●中主中学校パソコンの更新：新規（３５６万３千円）

中主中学校のパソコン教室のパソコンは形式が古く、また、台数も生徒２人に１台と少ないことから、機器を更新するとともに、生徒１人に１台となるよう台数を増やします。

▽パソコン台数　生徒用４０台　教師用２台

●野洲中学校改築基本構想の策定：新規（３６７万５千円）

子どもが安心して授業が受けられる環境を確保するため、老朽化している野洲中学校の校舎等の改築基本構想を策定します。

●有隣館老朽度調査と改築基本設計の実施：新規（１４２万２千円）

同和問題解決の拠点として、地区内外の啓発と交流の場となっている「有隣館」が老朽化していることから、今後の建替えに向けた老朽度調査と改築基本設計を行います。

2.人々が支え合う安心なまち

市民一人ひとりが生きる喜びを実感し、いきいきと輝くために、思いやりの心を持って、ともに支え合い、一人の漏れもなく健康で安心な生活を送ることができるまちをめざします。

●ＡＥＤ（自動体外式除細動器）の設置：拡充（２５７万３千円）

市民の命を守るため、平成１８年度に市役所等６箇所の行政関係建物に設置したＡＥＤ※1について、新たに市民活動の拠点である各コミュニティセンターにも設置します。

●後期高齢者医療制度の創設準備：新規（２３４１万８千円）

平成２０年度より７５歳以上の後期高齢者について、現行の老人保健制度が廃止され、新たに独立した後期高齢者医療制度が創設されることになり、その準備のため、運営主体となる

滋賀県後期高齢者医療広域連合の運営に要する経費を負担するほか、市民への広報や電算システムの開発及び医療受給者証の交付等を行います。

●市ホームページバリアフリーの導入：新規（２４万４千円）

市のホームページを障害者や高齢者など誰にでも読みやすくするため、文字の拡大や色彩の調整、音声による案内ができるソフトを導入します。

●特別支援教育の推進：新規（４１０万３千円）

従来の障害児教育に加え、ＬＤ※2、ＡＤＨＤ※3、高機能自閉症※4の軽度発達障害も包括し、一人ひとりの教育的ニーズに応じた適切な教育的支援として「特別支援教育」を行います。

●なかよし交流館の管理運営：新規（１２００万円）

平成１８年度に整備した障害者スポーツ施設「なかよし交流館」を開館し、心身に障害のある方々がスポーツを楽しみ、スポーツを通じて同じハンデイキャップを持つ方々との交流を深め、心身の健康保持増進を図ります。

●交通安全施設整備事業の実施：継続（1013 万円）

安全で快適に暮らせる地域づくりをめざし、道路の安全対策、整備を行います。また、高齢者や障害者などが安心して暮らせるよう、野洲市交通バリアフリー特定事業計画に基づき、人にやさしい生活道路の整備を実施します。

▽区画線修繕工事、歩道区画線明示、視覚障害者用誘導標整備等

●不審者・災害情報メール配信システムの整備：新規（１２６万９千円）

市民の安心・安全を確保するため、不審者情報や災害情報を携帯電話のメールを利用してリアルタイムに提供できるシステムを整備します。

3.美しい風土を守り育てるまち

自然や地球環境の保全と創造に重点を置いたまちづくりを推進します。

●県民参加の里山づくり事業の実施：新規（７８７万６千円）

エネルギーや肥料の供給源としての役割を失い放置されたままになっている里山を、環境に

対する意識をもって新たな役割と価値を見出し、それに合った里山をつくり上げ活用していく取り組みを行います。

●農地･水･環境保全向上活動推進事業の実施:新規(２４３３万７千円)

社会情勢の変化に伴う集落機能の低下により、適切な保全が困難となってきた農地や農業用水等の社会共通資本について、農業者だけでなく地域の多様な参画を得ながら適切な保全に取り組みます。

●環境基本計画の推進:新規(１７９万２千円)

市民参加のもと平成１８年度に策定した野洲市環境基本計画の実践に向け、市民と行政のパートナーシップにより、自然部会、ごみ資源部会、まち・くらし部会の３部会を設け、基本計画の実践活動を展開します。

4.地域を支える活力を生むまち

環境の保全を基礎として、基幹的な産業の競争力を維持・発展させるとともに地域の産業の振興を図り、また安定した就労により安心して働けるまちをめざします。

●工業振興助成金の交付:継続(６６９７万円)

工業の育成及び企業立地の推進を図り、工業の振興及び雇用の創出のため、ひいては市の活性化と税収確保のため、企業が行う投資に対して助成を行います。

●商業施設新設等の補助:継続(８０万円)

店舗の新築や増築、改築に併せて福祉向上及び環境負荷低減に向けた取り組みを行う事業者等に対し経費の一部を補助します。

●商工業振興事業の補助:継続(２６６０万円)

商工会等が行う小規模企業に対する指導事業及び商工業の振興と安定を図るための事業に要する経費に対し補助を行い、商工会の育成と市内商工業の振興を図ります。

●農道舗装工事:継続(３０００万円)

生産性の高い農業を目指し、生産基盤の強化の一環として農道舗装を行います。

●富士山サミット実行委員会の補助：継続（２００万円）

ふるさと富士を有する市町村が、ふるさと富士を通してネットワーク化し、地域の活性化を図るため、第１回全国ふるさと富士サミットや関連事業を行います。

5.うるおいとにぎわいのある快適なまち

豊かな自然を生かした均衡ある発展とともに、ユニバーサルデザインの視点に立った利便性の高い都市空間の創造、快適な居住環境の確保をめざします。

●野洲駅周辺整備計画の策定：新規（４００万円）

野洲市の玄関口である野洲駅周辺の活性化を図るために、駅前南口広場や周辺道路の整備するため、土地利用基本計画に基づき整備計画を策定します。

●野洲川右岸線道路改良工事：継続（1億６３００万円）

湖岸道路から大津能登川長浜線を結ぶ広域幹線道路で、守山市と野洲市を結び、南北に縦貫する主要道路である「野洲川右岸線」について、乙窪地先から比江地先までの間、約７４０ｍを整備します。

●市内道路維持工事：継続（６５００万円）

日常生活に欠かすことのできない公共施設である「市道」の安全で快適な環境を維持するため、拡幅や側溝整備等の事業を進めます。

●地籍調査の実施：継続（５６１万3千円）

土地における地籍を明確化し、市土の有効活用・保全を図ることを目的として、南桜地域において平成１７年度から平成２１年度までの５年間、地籍調査を行います。

▽全体実施面積　約３５ｈａ　平成１９年度実施面積　約９ｈａ

6.市民と行政がともにつくるまち

地方分権が進むなかで、個性ある暮らしやすいまちづくりを進めていくために、市民、企業、行政が人権と環境を基軸に交流・連携し、協働の手法により、ともに地域を支えていくことをめざします。

●市民活動サポートセンターの設置運営:新規(６３万８千円)

営利を目的とせず社会貢献活動を行っている個人や団体に対して、その活動の促進や支援等を行い、市民の自主的な活動による豊かな市民社会が発展することを目的として、ほほえみ情報交流センター内（野洲図書館）にサポートセンターを設置します。

●コンビニ収納システムの導入準備:新規(４６８万円)

市民の利便性向上のため、身近なところで２４時間いつでも取り扱いができるコンビニエンスストアにおいて、市税や使用料等の納付ができるように導入準備を順次進めます。

●総合計画の進捗管理:継続(６７万８千円)

平成１８年度に策定された第一次総合計画基本計画について、市民意識調査を行うとともに外部委員会を設置し、行政評価手法を用いて進捗管理を行います。

●行政改革の推進:継続(３１万９千円)

平成１８年度に策定された行政改革大綱、財政健全化計画に基づき、行政改革推進委員会及び補助金等検討委員会を設置し、より一層の行政改革を推進します。

●情報化計画の策定:継続(１０５万円)

市役所の様々な業務にIT を活用して、質の高い行政サービスを提供するとともに、行政運営の簡素効率化を図るため、市の情報化計画策定を行います。

【用語解説】

※１AED（自動体外式除細動器）：心臓の突然の停止の際に電気ショックを与え、心臓の働きを戻すことを試みる医療機器。

※２　LD（学習障害）：基本的には全般的な知的発達に遅れはないが、聞く、話す、読む、書く、計算する又は推論する能力のうち特定のものの習得と使用に著しい困難を示す様々な状態を指すもの。

※３　ADHD（注意欠陥・多動性障害）：年齢あるいは発達に不釣り合いな注意力、衝動性、多動性を特徴とする行動の障害で、社会的な活動や学業の機能に支障をきたすもの。

※４　高機能自閉症：３歳位までに現れ、他人との社会的関係の形成の困難さ、言葉の発達の遅れ、興味や関心が狭く特定のものにこだわることを特徴とする行動の障害である自閉症のうち、知的発達の遅れを伴わないもの。